



“地域のことは地域で考えよう”

2017年12月28日

おきぎん県内景況・速報 2017年11月

一県内景況は、拡大している一

■個人消費

スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。
百貨店売上高は前年同月を上回る。
家電卸出荷額は前年同月を下回り、新車販売台数は上回る。

■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を下回る。
生コン、セメントはともに前年同月を上回る。

■観光関連

入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数も上回る。
ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を上回る。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)も上回る。

■企業倒産

件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2017年11月分)

◎2017年11月 おきぎん「カトレア」景況図



◎概況：県内景況は、拡大している。

11月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに食料品が伸び、前年同月を上回りました。百貨店売上高は食料品などが伸び、前年同月を上回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、冷蔵庫など白物家電が伸びず、前年同月を下回りました。新車販売台数は、軽乗用車などの需要増加により、前年同月を上回りました。

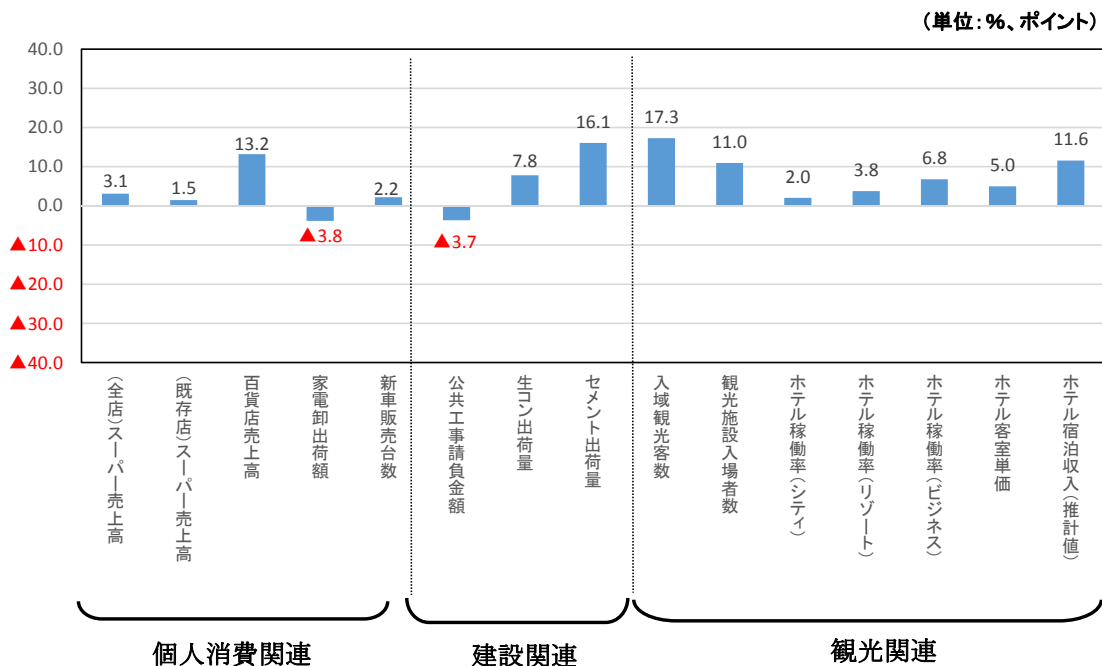
建設関連では、公共工事請負金額は、市町村ならびにその他の公共的団体発注工事の減少などで前年同月を下回りました。建設資材である生コン、セメントはともに前年同月を上回りました。

観光関連では、入域観光客数は62ヵ月連続で前年同月を上回り、観光施設入場者数も前年同月を上回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を上回りました。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)も上回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連でも好調な動きが継続していることなどから「県内景況は拡大している」と景気判断を据え置きました。

(2014年2月の上方修正後から46ヵ月連続で判断維持)

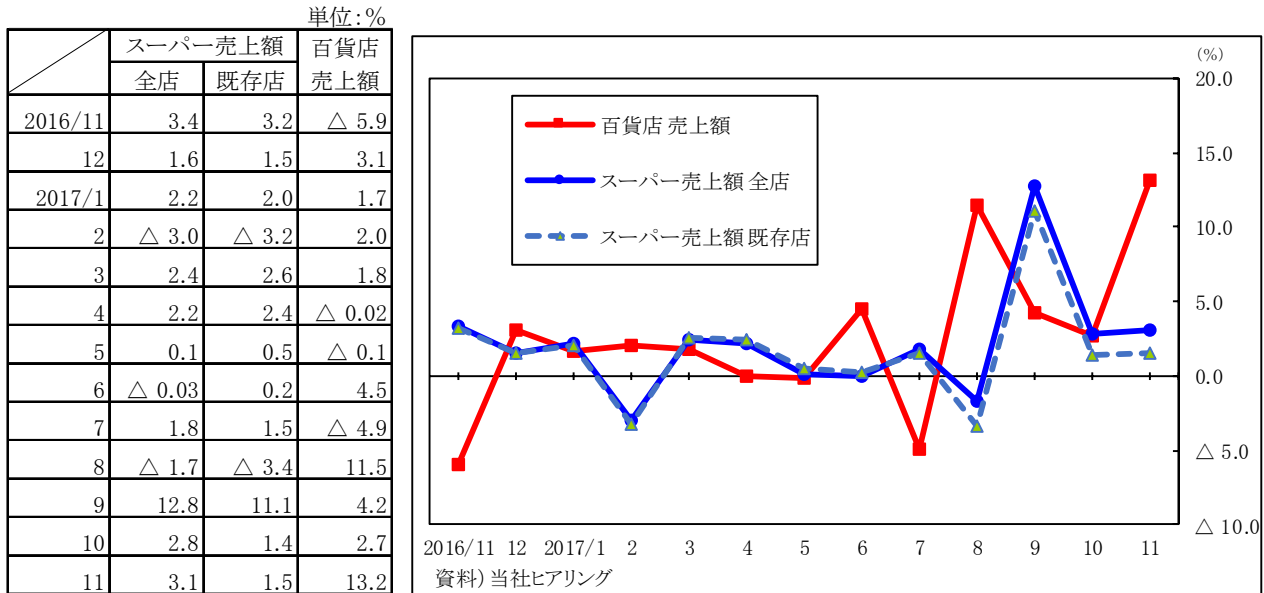
主要景気指標前年同月比





■ 個人消費： (やや良い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。百貨店売上高は前年同月を上回る。

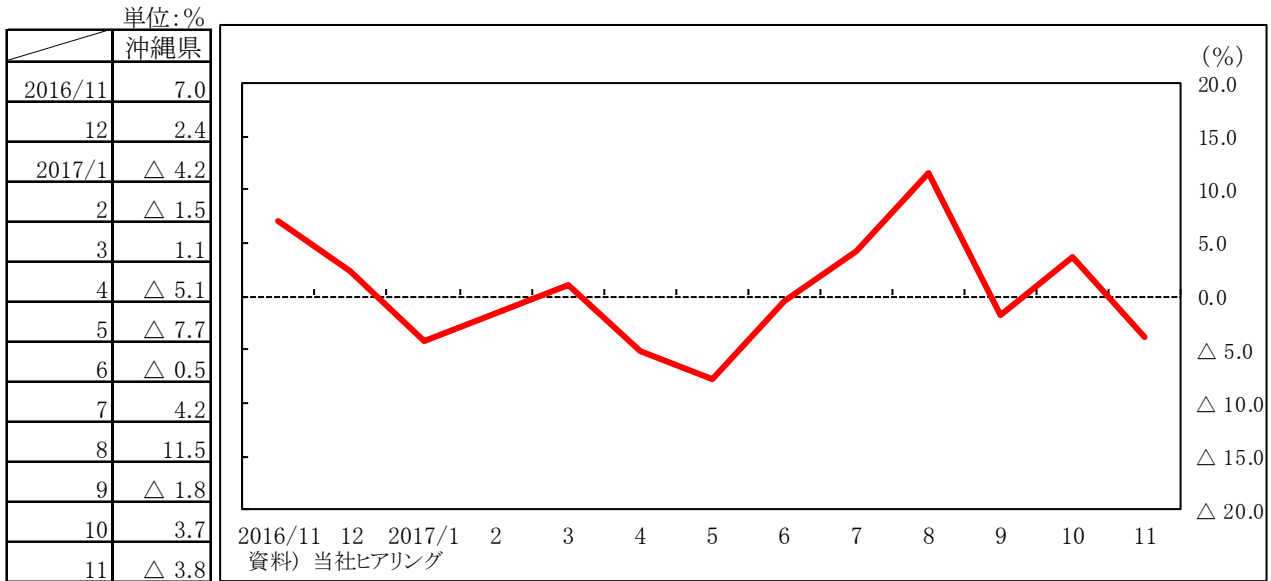


注) 前年同月比

11月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比 3.1%増)」は、新規出店効果などにより、「食料品(同 2.7%増)」「家庭用品(同 4.7%増)」などの売上が伸び、前年同月を上回りました。「既存店ベース(同 1.5%増)」は、3ヵ月連続で前年同月を上回りました。品目別では、ウエイトの高い「食料品(同 1.1%増)」は、販促効果により精肉などの生鮮食品が好調だったことに加え、惣菜、日配品の売上が伸び、前年同月を上回りました。また「家庭用品(同 2.8%増)」は、テレビや白物家電などの売上が堅調に推移したことに加え、寝具等の需要も増加し、前年同月を上回りました。「衣料品(同 3.3%増)」は、紳士服、婦人服、子供服など冬物衣料品の売れ行きが伸び、前年同月を上回りました。

百貨店売上高は、周年企画の催事開催効果や、昨年比に比べ休日の日並びがよかったことなどにより集客が伸びたことから、4ヵ月連続で前年同月を上回りました(同 13.2%増)。内訳をみると、ウエイトの高い「衣料品(同 3.5%増)」は、「紳士服(同 2.5%増)」、「婦人服(同 4.0%増)」の催事企画の開催により、単価の高い秋冬物の売上が伸び、前年同月を上回りました。また、「食料品(同 26.5%増)」は、前年に開催できなかった物産展の開催や、お歳暮ギフトセールを前倒したことなどから売上が伸び、前年同月を上回りました。「雑貨(同 15.7%増)」は、売り場のリニューアル効果や、インバウンド需要の増加などにより前年同月を上回りました。

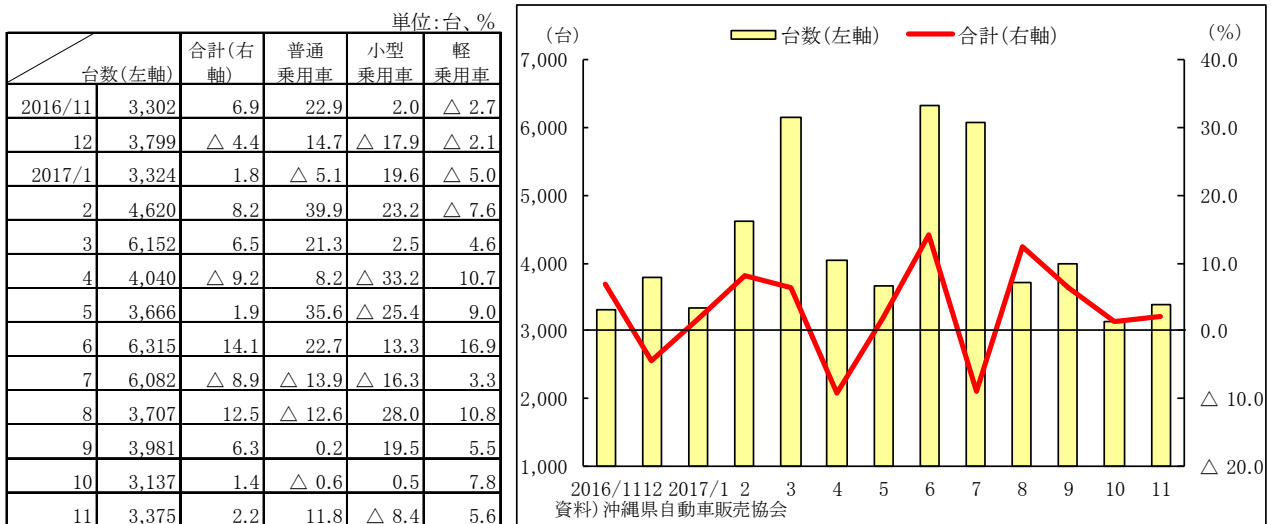
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は2ヵ月ぶりに前年同月を下回る



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、テレビ、冷蔵庫、洗濯機の売れ行きが伸びず、2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました(同 3.8%減)。品目別では、「エアコン(同 20.6%増)」は、前年に比べ気温が高く推移したことから、前年同月を上回りました。「冷蔵庫(同 33.8%減)」、「洗濯機(同 12.4%減)」は、前年に新型商品効果や販促効果により伸びた反動などから、前年同月を下回りました。「テレビ(同 12.8%減)」は、高価格帯商品の売れ行きが伸びず、前年同月を下回りました。

③ 新車販売台数…新車販売台数は、4ヵ月連続で前年同月を上回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

新車販売台数は、全体で3,375台(同 2.2%増)となり、4ヵ月連続で前年同月を上回りました。車種別では、「小型乗用車(同 8.4%減)」は、需要が伸びず、5ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。一方、「普通乗用車(同 11.8%増)」は、レンタカー需要の伸びなどにより、2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。「軽乗用車(同 5.6%増)」は、軽自動車税増税の影響により落ち込んだ前年の反動から、9ヵ月連続で前年同月を上回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

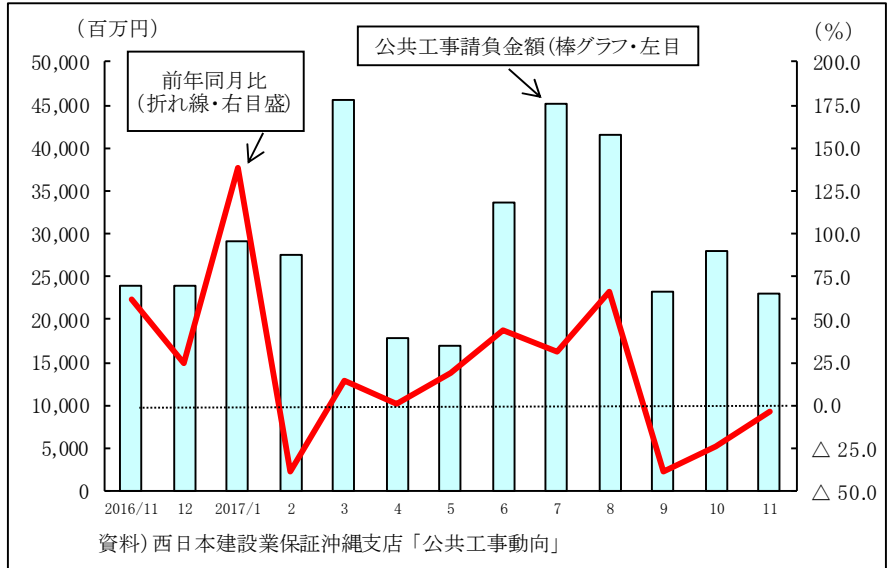


■ 建設関連： (良い)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を下回る。

単位:百万円、%

	請負金額	前年同月比
2016/11	24,026	62.2
12	23,920	25.1
2017/1	29,148	138.9
2	27,499	△38.6
3	45,553	14.0
4	17,823	0.7
5	16,886	18.4
6	33,703	43.9
7	45,031	31.8
8	41,576	66.3
9	23,363	△38.3
10	28,073	△23.5
11	23,134	△3.7

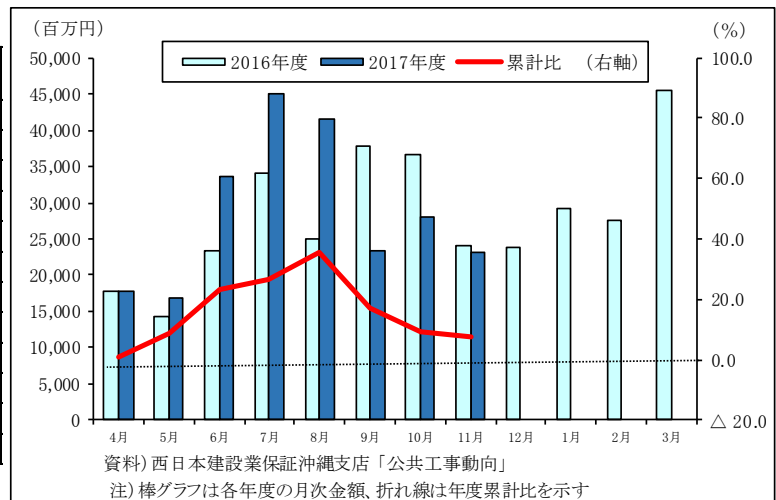


11月の公共工事請負金額は、前年同月比3.7%減の231億3,400万円となりました(3ヵ月連続減)。発注者別でみると、「国(同237.4%増)」は那覇空港滑走路増設工事などの大型工事、「独立行政法人等(同863.2%増)」は水準が低かった前年同月を上回りました。一方で「沖縄県(同22.7%減)」は前年に大型工事が多かったこと、「市町村(同46.1%減)」は前年あった多良間村での製糖施設新築工事の反動、「その他の公共的団体(同65.1%減)」は前年あった那覇港総合物流センター(仮称)関連工事の反動などで前年同月を下回りました。

【参考】公共工事(年度累計)・・・公共工事請負金額は前年同期を上回る。

単位:百万円、%

	2016年度	2017年度	累計比(右軸)
4月	17,690	17,823	0.7
5月	14,261	16,886	8.6
6月	23,421	33,703	23.5
7月	34,156	45,031	26.7
8月	24,997	41,576	35.4
9月	37,867	23,363	17.1
10月	36,683	28,073	9.2
11月	24,026	23,134	7.7
12月	23,920		
1月	29,148		
2月	27,499		
3月	45,553		

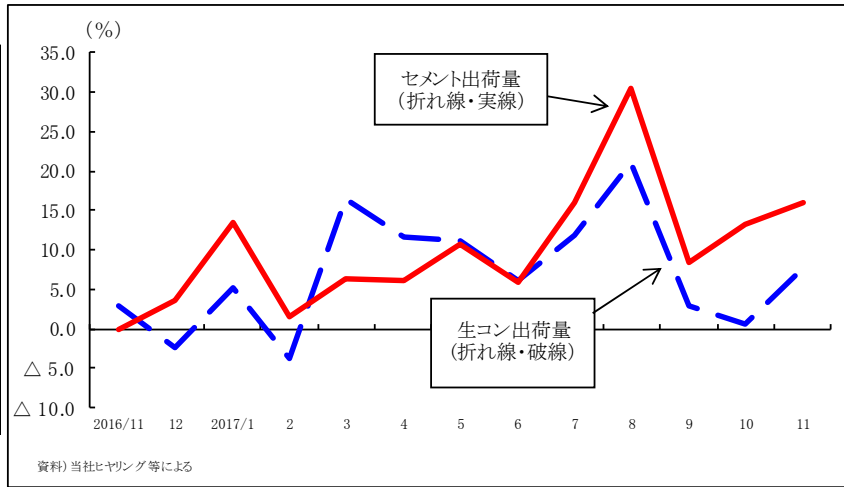


今年度4月～11月までの累計を前年度同期と比較すると、7.7%増となっています。
(上記折れ線グラフ)

②建設資材・・・生コン、セメントはともに前年同月を上回る。

単位:前年同月比(%)

	生コン	セメント
2016/11	3.0	△ 0.1
12	△ 2.4	3.5
2017/1	5.1	13.5
2	△ 3.7	1.6
3	16.5	6.3
4	11.6	6.1
5	11.1	10.7
6	6.1	5.9
7	11.8	15.9
8	21.0	30.6
9	2.9	8.4
10	0.7	13.2
11	7.8	16.1



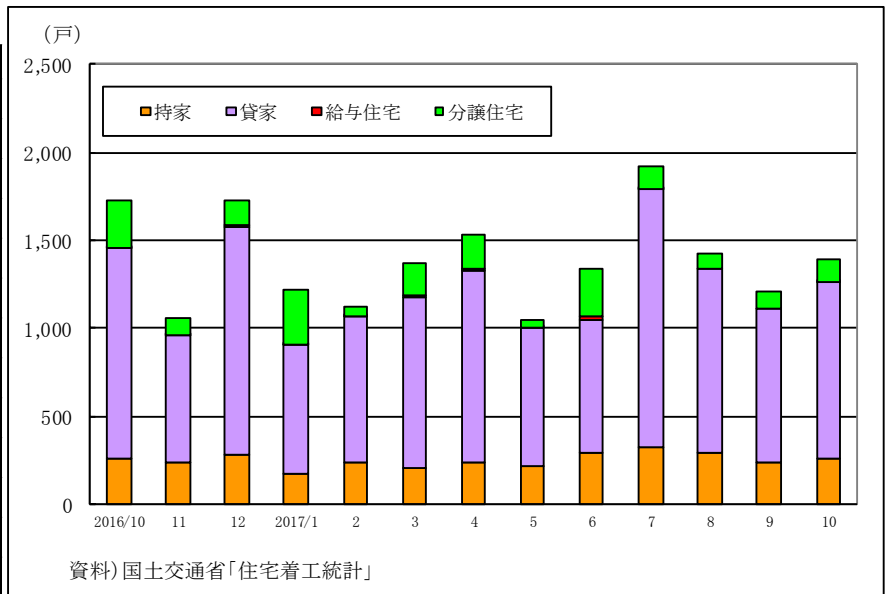
(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

建設資材関連では、生コンの出荷量は 7.8%増と 9 ヶ月連続で前年同月を上回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同月より 14.1%上回り、民間工事向け出荷は 4.4%上回りました。セメント出荷量は 16.1%増と 12 ヶ月連続で前年同月を上回りました。

【参考】住宅投資 (10 月)・・・着工戸数は前年同月を下回る。

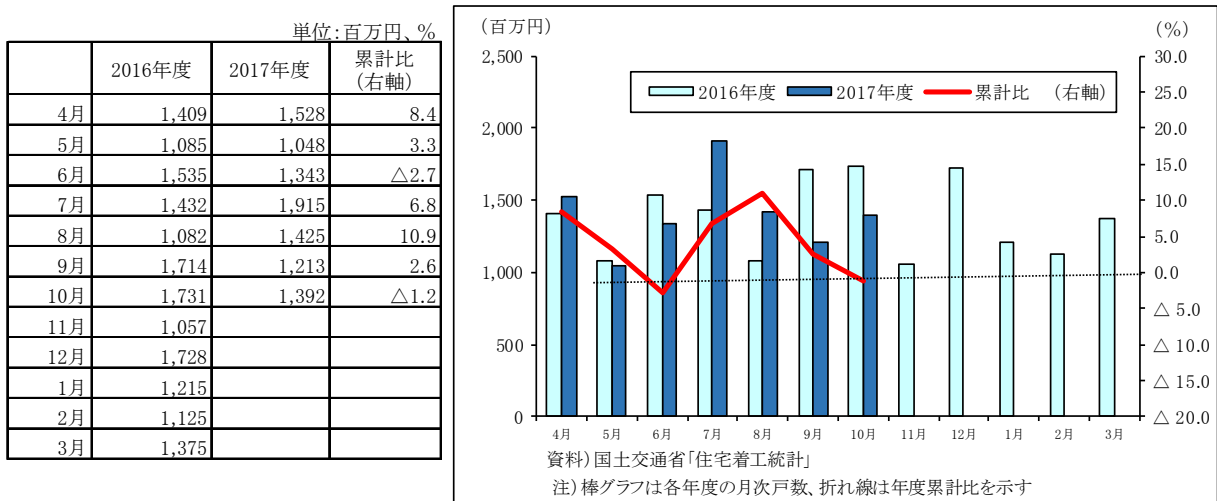
単位:戸、%

	着工戸数	前年同月比
2016/10	1,731	54.8
11	1,057	△19.1
12	1,728	32.3
2017/1	1,215	△11.1
2	1,125	12.5
3	1,375	29.5
4	1,528	8.4
5	1,048	△3.4
6	1,343	△12.5
7	1,915	33.7
8	1,425	31.7
9	1,213	△29.2
10	1,392	△19.6



新設住宅着工戸数 (10 月) は、全体で前年同月比 19.6%減の 1,392 戸と 2 ヶ月連続で前年同月を下回りました。利用別戸数をみると、ウェイトの高い「貸家 (同 16.2%減)」や「持家(同 0.8%減)」、「給与住宅(同 25.0%減)」、「分譲住宅(同 52.0%減)」のすべてで前年同月を下回りました。

【参考】住宅投資（年度累計）・・・着工戸数は前年同期を下回る。

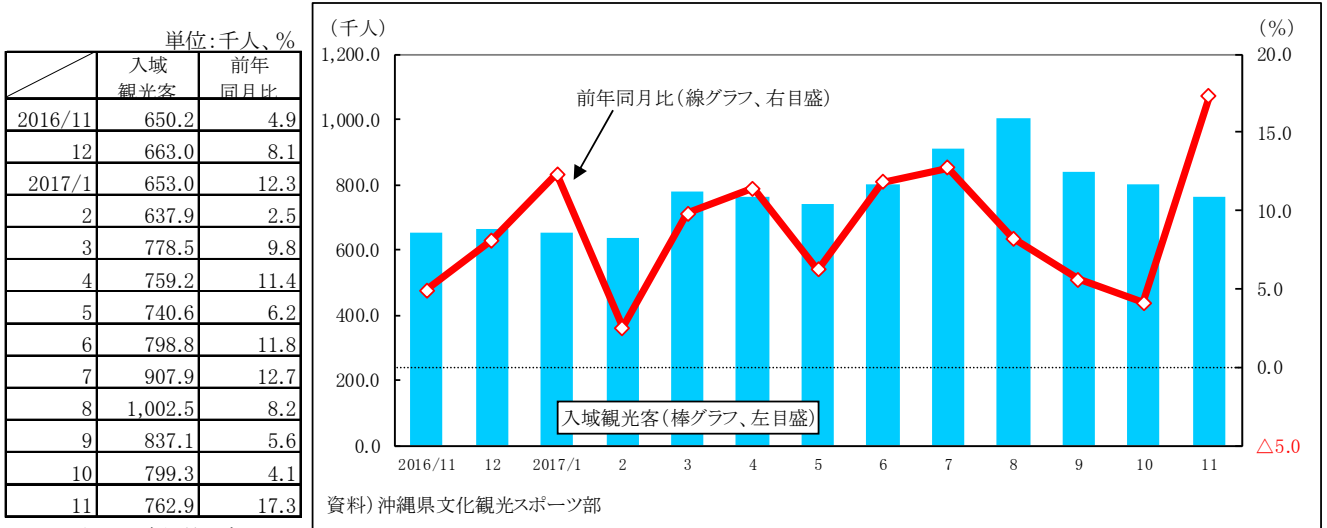


年度累計で見ると、1.2%減となっています。(上記折れ線グラフ)



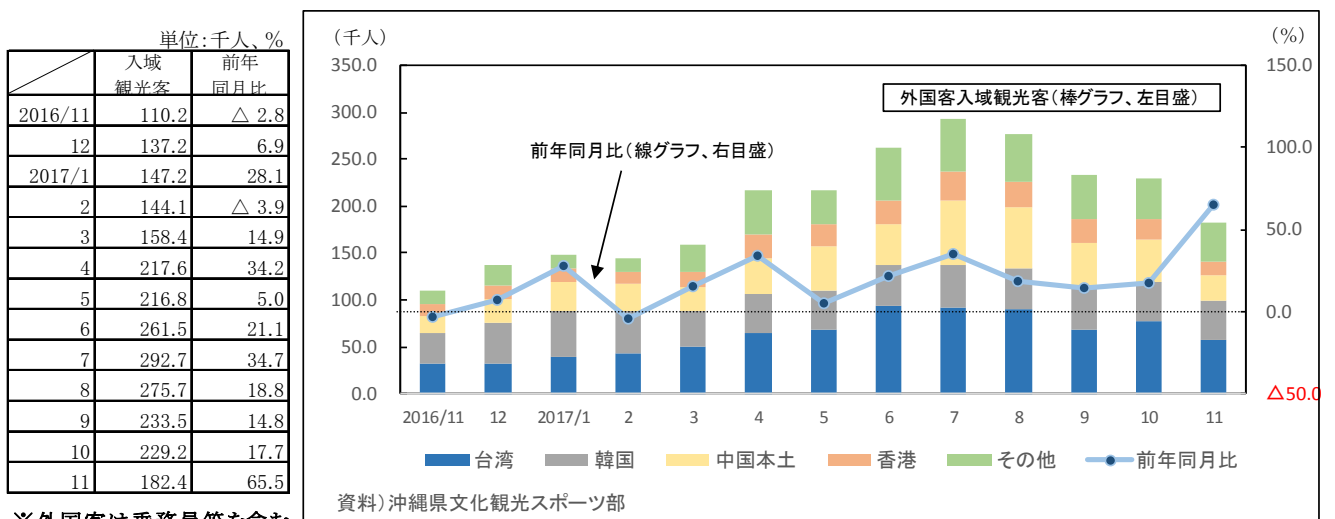
■観光関連： (良い)

①入域観光客数 (国内客・外国客の合計)・・・62ヵ月連続で前年同月を上回る。



※外国客は乗務員等を含む

外国客 入域観光客数・・・9ヵ月連続で前年同月を上回る。



※外国客は乗務員等を含む

11月の入域観光客数は、112,700人多い762,900人(前年同月比17.3%増)となり、62ヵ月連続で前年同月を上回りました(11月としては過去最高)。

内訳をみると、「国内客(同7.5%増)」は580,500人と、連休の日並びが良かったことに加え、修学旅行や離島直行便において需要が好調に推移したことなどから、2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。

他方、「外国客(同65.5%増)」は、182,400人と9ヵ月連続で前年同月を上回りました。航空路線の拡充(シンガポールー那覇路線の新規就航等)効果、クルーズ船寄港回数的大幅増加等により前年同月を上回りました。

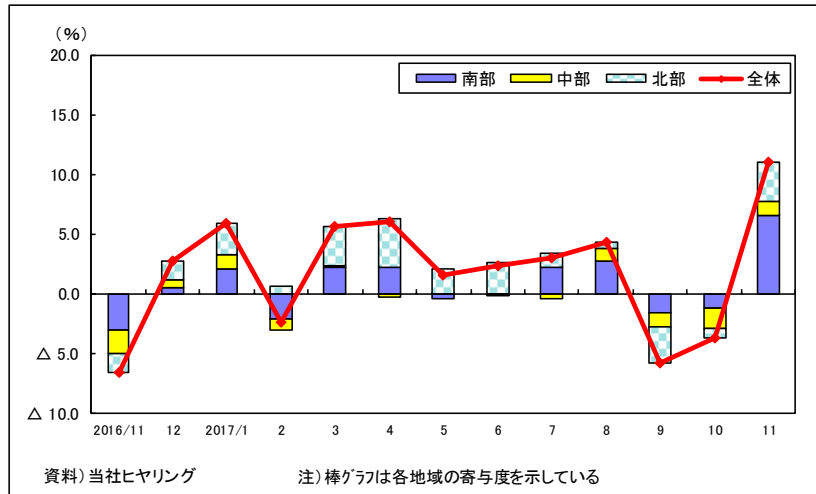
「台湾(同75.8%増)」「韓国(同28.0%増)」「中国本土(同61.0%増)」「香港(同0.7%増)」

※乗務員等を除く2017年11月実績=全体737,100人(同14.6%増)、外国客156,600人(同51.9%増)、国内客は変わらない。

②観光施設入場者数・・・3ヵ月ぶりに前年同月を上回る。

単位: %

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2016/11	△ 6.7	△7.4	△ 14.2	△3.7
12	2.7	1.1	5.0	3.5
2017/1	5.9	5.4	8.9	5.5
2	△ 2.4	△5.6	△ 7.6	1.3
3	5.6	5.6	1.6	6.7
4	6.1	5.8	△ 1.8	8.5
5	1.5	△1.2	0.04	4.2
6	2.4	△0.1	△ 1.3	5.0
7	3.0	6.7	△ 3.9	2.2
8	4.3	8.1	9.7	1.0
9	△ 5.8	△4.7	△ 10.5	△5.6
10	r △ 3.7	r △3.1	△ 14.5	△1.5
11	11.0	15.7	9.7	7.1



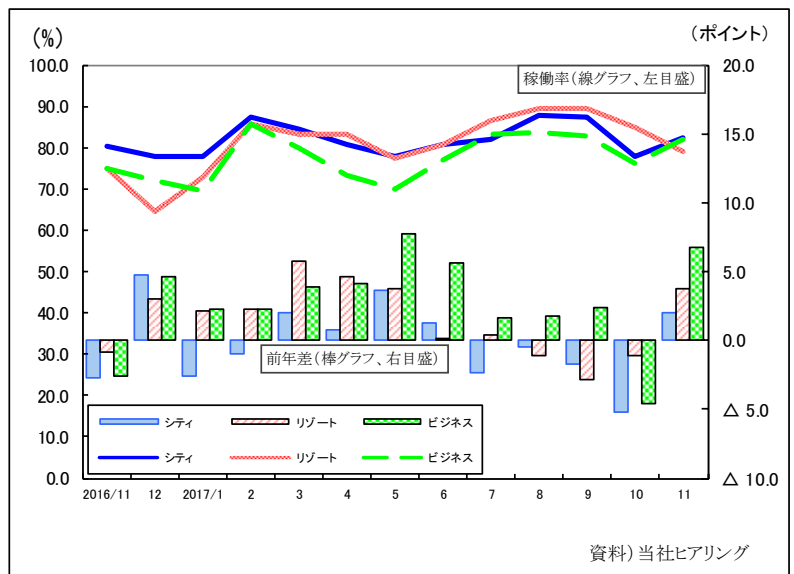
※調査対象施設数＝南部6、中部6、北部5施設
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より 11.0%増加(3ヵ月ぶり)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同 15.7%増と3ヵ月ぶり、中部は同 9.7%増と3ヵ月ぶり、北部は同 7.1%増と3ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。

③ホテル稼働率・・・シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を上回る。

単位: %、ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2016/11	80.2	75.1	75.0	△ 2.7	△ 0.9	△ 2.6
12	77.6	64.4	72.0	4.8	3.0	4.6
2017/1	77.9	73.0	69.6	△ 2.6	2.1	2.3
2	87.3	85.6	85.7	△ 1.0	2.3	2.3
3	84.3	83.0	79.8	2.0	5.7	3.9
4	80.9	83.1	73.4	0.8	4.6	4.1
5	77.8	77.2	69.9	3.6	3.7	7.7
6	80.9	80.8	76.9	1.3	0.1	5.6
7	82.0	86.6	83.0	△ 2.4	0.4	1.7
8	87.6	89.4	83.8	△ 0.5	△ 1.1	1.8
9	87.4	89.3	82.8	△ 1.7	△ 2.8	2.4
10	77.7	84.9	76.3	△ 5.2	△ 1.1	△ 4.6
11	82.2	78.9	81.8	2.0	3.8	6.8



注)シティ9ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス7ホテル

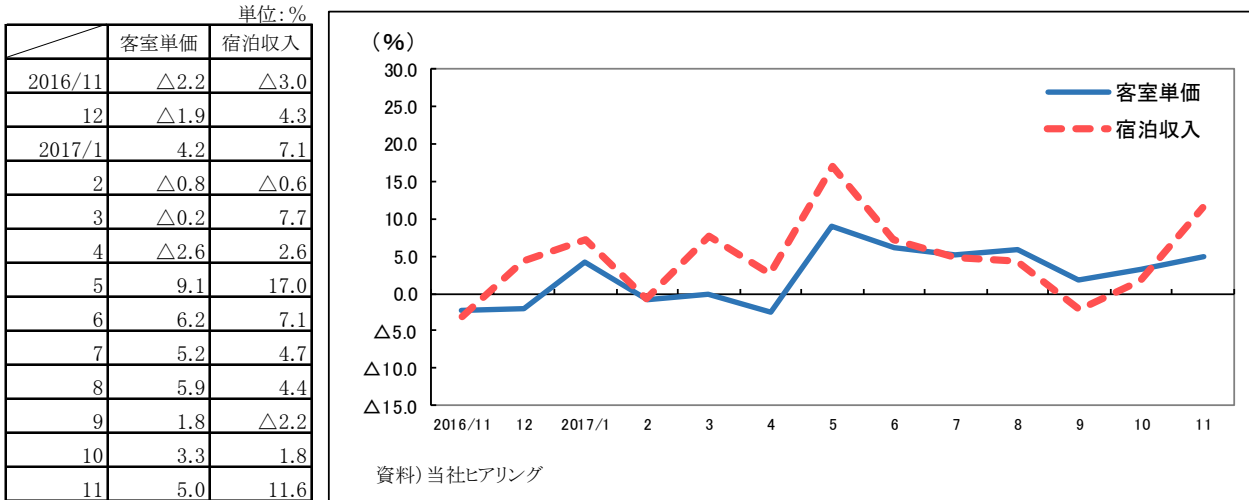
注)2015年10月より、シティホテル対象施設数が変更(10⇒9)となったことから、2014年10月以降の数値を遡って改定した。

注)2016年4月より、リゾートホテル対象施設数が変更(19⇒18)となったことから、2015年4月以降の数値を遡って改定した。

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが 82.2%と 2.0 ポイント上昇(5ヵ月ぶり)、リゾートホテルが 78.9%と 3.8 ポイント上昇(4ヵ月ぶり)、ビジネスホテルが 81.8%と 6.8 ポイント上昇(2ヵ月ぶり)しました。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入も上回る。



※対象施設数: 27施設(シティ9、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は27施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※2015年10月より、シティホテル対象施設数が変更(10⇒9)となったことから、2014年10月以降の数値を遡って改定した。

※2016年4月より、リゾートホテル対象施設数が変更(19⇒18)となったことから、2015年4月以降の数値を遡って改定した。

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年同月比 5.0%増と前年同月を上回りました。**宿泊収入**も同11.6%増と前年同月を上回りました。

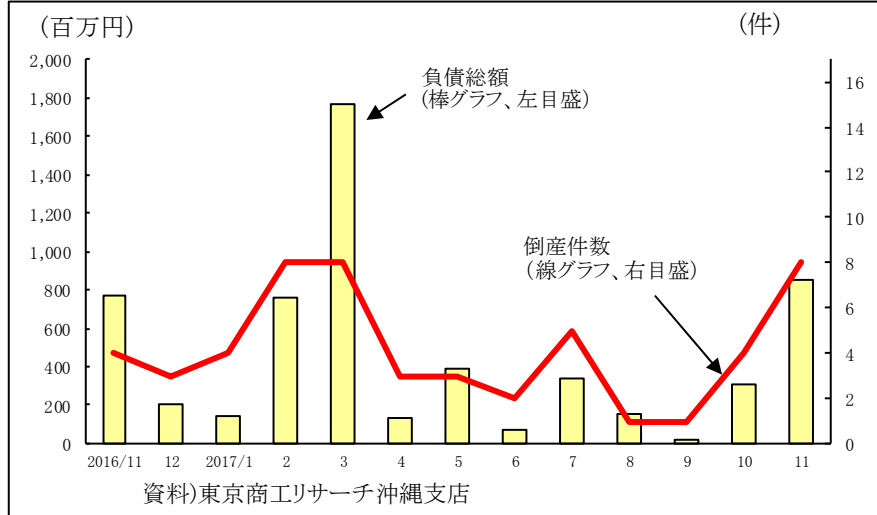


■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

単位:百万円、件

	負債総額	倒産件数
2016/11	770	4
12	200	3
2017/1	141	4
2	760	8
3	1,766	8
4	130	3
5	391	3
6	70	2
7	334	5
8	157	1
9	16	1
10	307	4
11	852	8



11月の企業倒産件数は、8件(うち大口倒産は2件)となり、同100.0%増と前年同月を上回りました。負債総額は8億5,200万円となり、前年同月より10.6%増加しました。

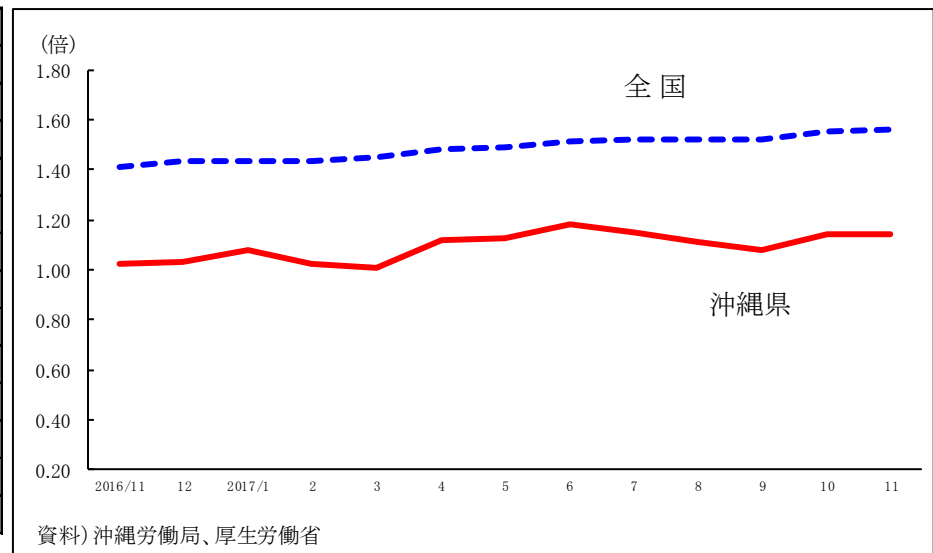


【参考】雇用関連： (良い)

有効求人倍率(11月)・・・沖縄は前月と同水準、全国は上昇。

単位:倍

	沖縄県	全国
2016/11	1.02	1.41
12	1.03	1.43
2017/1	1.08	1.43
2	1.02	1.43
3	1.01	1.45
4	1.12	1.48
5	1.13	1.49
6	1.18	1.51
7	1.15	1.52
8	1.11	1.52
9	1.08	1.52
10	1.14	1.55
11	1.14	1.56



注)季節調整済

注)季節調整法は、センサス局法Ⅱ(X-12-ARIMA)による

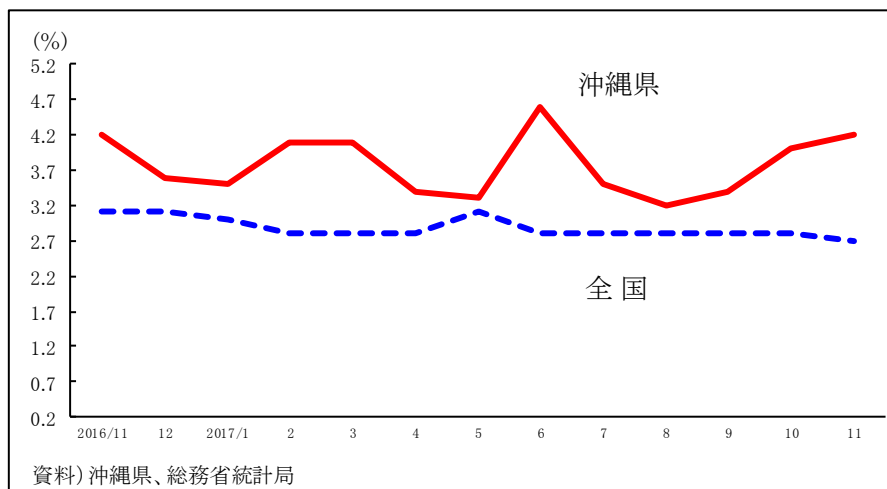
11月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比0.5%減の29,129人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比0.6%減の25,472人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.14倍となり前月と同水準となりました。

完全失業率 (11月)・・・沖縄は前月より上昇、全国は低下。

単位:倍

	沖縄県	全国
2016/11	4.2	3.1
12	3.6	3.1
2017/1	3.5	3.0
2	4.1	2.8
3	4.1	2.8
4	3.4	2.8
5	3.3	3.1
6	4.6	2.8
7	3.5	2.8
8	3.2	2.8
9	3.4	2.8
10	4.0	2.8
11	4.2	2.7

注) 季節調整済



11月の完全失業率(季節調整値)は、4.2%となり前月より0.2ポイント上昇しています。